

MICIN、東京大学・東北大学と過敏性腸症候群患者の症状を緩和するため 認知行動療法を用いる治療用アプリ開発に関する共同研究を開始

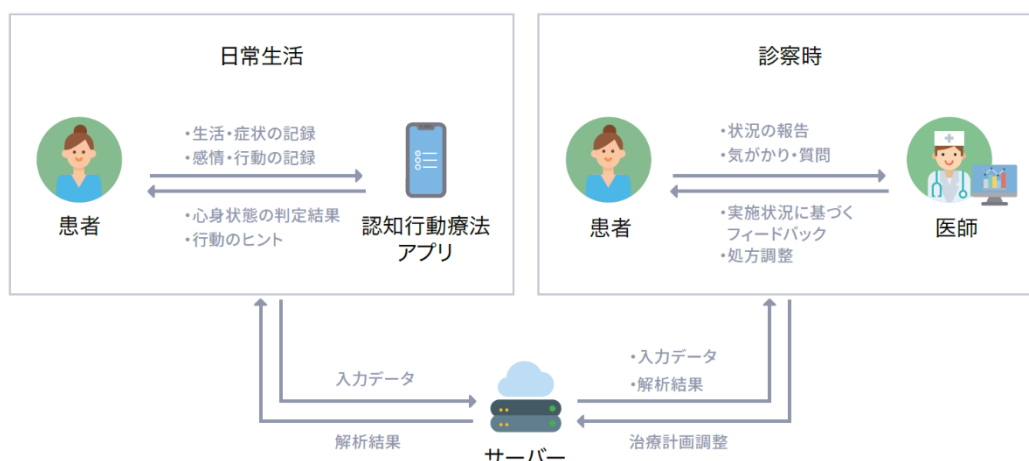
株式会社MICIN(本社:東京都千代田区、代表取締役CEO:原聖吾、以下 MICIN)は、国立大学法人東京大学(医学部附属病院 心療内科 吉内一浩准教授)、国立大学法人東北大学(大学院医学系研究科 福土審教授)と過敏性腸症候群患者の症状緩和を目指し、認知行動療法の技法の一つである曝露療法*1を用いる治療用アプリの開発に向け、共同研究を開始いたしました。

過敏性腸症候群は、腸に炎症や腫瘍などが無いにも関わらず、腹痛や便秘・下痢などの便通異常が数ヵ月以上続く疾患です。日本での有病率は約14%であり、欧米でも10~20%と言われています*2。腹痛や便通異常はストレスや不安などの心の状態によって引き起こされるため、症状緩和のためには日常生活の中でのきっかけを見つけ、そのきっかけに対してストレスや不安を感じにくくするようにしていくことが必要となります。

今回の共同研究では、東京大学医学部附属病院と東北大学病院で、過敏性腸症候群で心療内科を受診される患者を対象に、ストレスや不安への耐性を上げるために曝露療法に取り組んでいただきます。患者はアプリを通じて日常生活と症状を記録し、曝露療法に取り組んだ際の、感情や行動の様子もアプリに記録します。記録されたデータはサーバーに送られ、タイムリーに解析され、その解析結果に基づき、取り組んだ曝露療法に対するフィードバック等を得ることができます。このようにPHR*3を活用し、その解析結果のタイムリーなフィードバックを通して、患者が自身の症状をより深く理解し、症状のセルフコントロールを促すことで、アプリによる症状緩和が可能か検証します。

また、医師は、アプリを通じて収集されたデータにより、患者の日常生活での状態や曝露療法の実施状況を把握しながら診察できるとともに、解析結果をもとに患者にあった治療法の提案も行えるようになります。

今回の共同研究を踏まえ、将来的には過敏性腸症候群患者向けの認知行動療法を用いた治療用アプリの開発を目指してまいります。



*1: 不安の原因になる刺激に段階的に触れることで、不安を消していく方法

<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/heart/yk-006.html>

*2: https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpdd/20/1/20_23/_pdf

*3: Personal Health Record、患者が自らの医療・健康情報を収集し一元的に保存するしくみ

【株式会社MICIN 会社概要】

会 社 名: 株式会社MICIN

所 在 地: 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル13階

設 立: 2015年11月26日

代 表 者: 代表取締役 原 聖吾

事業内容: オンライン医療事業、臨床開発デジタルソリューション事業、デジタルセラピューティクス事業、
保険事業等

コーポレートサイト: <https://micin.jp>